

# 米国チルドレンズミュージアムにおけるパラダイムシフト

—モノと人から、人と人の対話へ—

土谷香菜子\*

## The Paradigm Shift of Children's Museums in the U.S.:

From object and human to human-to-human communication through collection items

Kanako TSUCHIYA

### Abstract

The Association of Children's Museums (ACM) published the definition of Children's Museums in 2012 and 2019. This study aimed to study the differences between 2012 and 2019 to reveal the paradigm shift regarding children's learning at Children's Museums. The content analysis of definition of Children's Museums in 2012 showed the importance of interaction between collection items and children. Whereas the definition of Children's Museums in 2019 emphasized the communication between children and/or their family through collection items. Current study discussed on two factors which might have influenced the paradigm shift between 2012 and 2019.

**Keywords: Children's Museum, Museum, the U.S., learning,**

### 1 はじめに

日本の私たちはミュージアムといえば、作品や収蔵品が飾ってある場所を指して、それをさわらずに眺めて静かに鑑賞する場所としてミュージアムを想像している。かつては米国のチルドレンズミュージアムでも作品や収蔵品があり、それをさわらずに眺めて鑑賞する場所として考えられていた。ところが、最近の米国チルドレンズミュージアムは作品や収蔵品がないというミュージアムが広がりを見せている。最近のチルドレンズミュージアムはいわゆる固定的な鑑賞のためだけのさわれない作品、展示物や標本があるのではなく、子どもが実際にモノに関わって学ぶようなものがある。このような作品主義のミュージアムからハンズオンを促すような展示としてのチルドレンズミュージアムに変わってきたのはどのような理由からなのだろうか。米国では1960年代から1980年代に、ボストンチルドレンズミュージアム (Boston Children's Museum, 2013) が試みた、ハンズオンの展示や活動が広がってきた。その理由についての分析と考察は小笠原 (2015) に詳しい。ハンズオンの展示や活動では、ガラスケースの外から作品や収蔵品を眺めるものから、ガラスケースを開け、作品や収蔵品を直接触れる経験が子どもにとって最も大切だと考

---

キーワード：チルドレンズミュージアム、ミュージアム、米国、学び

\* お茶の水女子大学大学院博士後期課程

えられた。実際に、1964年にボストンチルドレンズミュージアムで公開された展示「中はどうなっているのだろうか?」（筆者邦訳、原著は「What's inside?」）では「さわらないでください」というラベルではなく、「さわってください」とラベルが張られた (Boston Children's Museum, 2013)。これはデューイのいう「行うことによって学ぶ」(Dewey, 1991)である。Dewey (1991)は、子どもの発達、自分が興味を持つ課題に実験的に集中して取り組む活動を通じた、知的経験によって促されると提唱した。

さらに、近年、モノと人とのあいだの直接経験にとどまらず、モノをめぐる人と人とのコミュニケーションこそ、チルドレンズミュージアムが目指すべき理念となりつつある (図1、図2)。

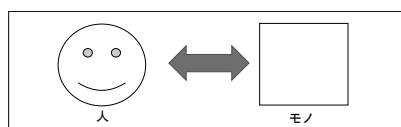


図1：モノと人

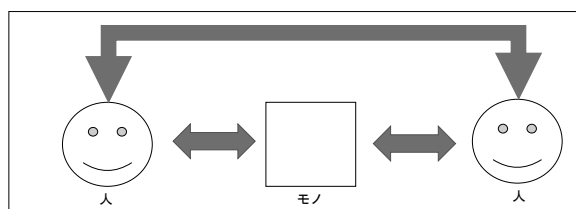


図2：モノをめぐる人と人とのコミュニケーション

図1と図2では、モノと人とのあいだの直接経験から、モノをめぐる人のコミュニケーションへとチルドレンズミュージアムが目指す理念が変化した様子を図示した。本研究では、(1)それが大きく変わった前後の2012年版と2019年版の米国チルドレンズミュージアム協会によるチルドレンズミュージアムの定義 (Association of Children's Museums, 2022; Association of Children's Museums, 2019)を比較し、(2)モノをめぐる人と人とのコミュニケーションを大切にしようと考えたシフトの背景と理由を探ることを目的とする。

## 2 問題と目的

チルドレンズミュージアムの教育活動においては、近年モノと人とのあいだの直接経験にとどまらず、モノをめぐる人と人とのコミュニケーションに重きをおくことが目指す理念となりつつある。本研究では、(1)それが大きく変わった前後の2012年版と2019年版の米国チルドレンズミュージアム協会によるチルドレンズミュージアムの定義を比較し、(2)モノをめぐる人と人とのコミュニケーションを大切にしようと考えたパラダイムシフトの背景と理由を探ることを本研究の目的とする。

## 3 対象と方法

### 3.1 対象

本研究の対象は、米国のチルドレンズミュージアム協会(Association of Children's Museums)が発行した2012年版(Association of Children's Museums, 2022)の「チルドレンズミュージアムの専門職実践のスタンダード (Standards for Professional Practice in Children's Museums)」と、2019年版(Association of Children's Museums, 2019)の「チルドレンズミュージアムとは何か? (What Is a Children's Museum?)」の文書資料である。この文書資料は不定期にチルドレンズミュージアム協会から発行され、チルドレンズミュージアム協会のホームページにPDF形式で公開されている。この文書は改訂の度、一部の内容項目はそのままに、

内容が改訂されている。それぞれの改訂年度によって文書タイトル、内容構成やページ数は異なっている。この文書は改訂される度に、チルドレンズミュージアム協会から認定を受けている470館のミュージアムのミッションステートメントや運営方針にも反映されているため、影響力のある文書として、米国チルドレンズミュージアムにおけるパラダイムシフトを明らかにするのに有効な分析対象であると考えられた。2012年版の「チルドレンズミュージアムの専門職のためのガイドライン」では、合計14ページの始めの1ページ部分を研究対象とした。始めの1ページ部分では、チルドレンズミュージアム協会が定義する、チルドレンズミュージアム、コレクション、コレクションマネジメントポリシーについて短く簡潔に書かれている。2ページ目以降は、現場の専門職が実践的に利用する目的で書かれ、実践者が自己評価できるようにクエスチョン形式で書かれている部分もある。本研究では2012年版と2019年版のチルドレンズミュージアムの定義の変化を調べるため、2012年版の始めの1ページを分析対象とする。続いて、比較の対である2019年版では、「チルドレンズミュージアムとは何か？（What Is a Children's Museum?）」と題された合計2ページの資料の始めの1ページ部分に、チルドレンズミュージアムの定義文書が示されている。2ページ目には定義の詳細な説明が具体例を交えて説明されている。本研究では2012年版と2019年版のチルドレンズミュージアムの定義の変化を調べるため、2019年版の始めの1ページを分析対象とする。

### 3.2 分析方法

本研究の方法は、2012年版と2019年版を翻訳し、チルドレンズミュージアムとは何かが書いてある文章やその内容を検討し、一つ一つの文章からキーワードとなる用語を抽出し、2012年版と2019年版を比較し、チルドレンズミュージアムの定義がどのように変容しているのかについて精査した。例えば、オブジェクト、収蔵品、地域の観光地などである。

## 4 結果

本節では、最初に①2012年版「チルドレンズミュージアムの専門職のためのガイドライン（Standards for Professional Practice in Children's Museums）」（Association of Children's Museums, 2012）の一部抜粋（著者による邦訳）を示す。続いて、2019年版の②「チルドレンズミュージアムとは何か？（What Is a Children's Museum?）」（著者による邦訳）の一部抜粋を示す。

最初に、①「チルドレンズミュージアムの専門職のためのガイドライン（Standards for Professional Practice in Children's Museums）」（Association of Children's Museums, 2012）の一部抜粋（著者による邦訳）を示す。

チルドレンズミュージアム：

チルドレンズミュージアムは好奇心を刺激し、学習意欲を高めるような展示やプログラムを提供し、子どもたちのニーズや興味に応えることを目的とした施設と定義する。チルドレンズミュージアムは、非営利の常設施設<sup>1</sup>として組織され、教育を重要な目的とし、専門のスタッフがいて、展示物を利用し、何らかの定期的なスケジュールで一般公開する。

コレクション：

博物館が市民のために信託している、生物または非生物の物体。通常、収蔵された時点で博物館のコレクションの一部とみなされる。博物館によっては、機能的に異なる種類のケアや利用を受けるコレクション（常設、研究、教育）のカテゴリーを指定しているところもある。これらのカテゴリーとその関連性は、

<sup>1</sup>非営利の常設施設

非営利のステータスは、米国に本拠を置くミュージアムに適用される。チルドレンズミュージアムスタンダードドキュメント© - Association of Children's Museums [www.ChildrensMuseums.org](http://www.ChildrensMuseums.org)

博物館のコレクション・マネージメント・ポリシーで定められる。

コレクション・マネージメント・ポリシー：

コレクション・マネージメント・ポリシーとは、管理当局によって承認された文書で、収蔵、文書化、保管、処分など、コレクションに関連する全ての問題に関する博物館の方針が明記されているものである。方針は、組織の活動を規制する一般的なガイドラインである。方針は、適切な判断を促すための基準を提供するものである。

オブジェクト：

チルドレンズミュージアムの定義にあるように、オブジェクトは主に、学習の動機づけと子どもの発達のニーズに対応するためのツールとして機能する。オブジェクトは、チルドレンズミュージアムの教育目的を遂行するための道具であり、その目的を反映したものである。展示方法は、実質的に双方向的で文脈的である。オブジェクトは、必ずしも科学、歴史、芸術、文化に本質的な価値を持つとは限らず、構築された活動ピースや展示構成要素を含むこともあり得る。

①「チルドレンズミュージアムの専門職のためのガイドライン (Standards for Professional Practice in Children's Museums)」(Association of Children's Museums, 2012)では、最初にチルドレンズミュージアムの定義が記述され、続いてコレクション、コレクション・マネージメント・ポリシー、オブジェクトの定義が示された。

次に、② 2019年版「チルドレンズミュージアムとは何か？」(Association of Children's Museums, 2019)の一部抜粋 (著者による邦訳) を示す。

チルドレンズミュージアムは、好奇心を刺激し、学習意欲を高めるような展示やプログラムを提供し、子どもたちのニーズと関心に答えることを目的とした非営利の教育・文化施設と定義する。

チルドレンズミュージアムは、ユニークなコミュニティ施設であり、

- 子どもは、発達に応じた質の高い学習体験をする権利を持つ、大切な市民である。
- 遊びは学びであり、子どもの健康、社会性、情緒、認知の発達に欠かせないものである。
- 家族、文化、環境、社会は、すべての子どもたちの生活にとって重要な要素であると認識し、子どもたちに効果的なサービスを提供する。
- すべての子どもと家族に献身し、この分野の成長を促進することへのコミットメントを反映し、公平性と包摂性を追求することが最善の実践方法である。

世界には300を超えるチルドレンズミュージアムがあり、何百万人も家族にサービスを提供しているが、どの施設もユニークな存在である。チルドレンズミュージアムは、学習と遊びのための楽しい空間であり、単に訪れるだけの場所ではないことが知られている。実際、規模に関係なくすべてのチルドレンズミュージアムは、地域の観光地として (展示などのデザインされた空間を通じて)、教育的なラボとして (プログラムを通じて)、コミュニティの資源、子どものための代弁や擁護の4つの働きがある。

すべてのチルドレンズミュージアムは、これらの役割を違った形で実践している。コミュニティにおける子どもと家族をめぐる重要な対話の最前線に立ち、連合を率い (lead coalitions)、政策と実践を変えていくこともある。また、物理的な立地や人間関係を活かして、(他の組織の) パートナーの努力を促進する支援的な役割を果たすこともある。

米国チルドレンズミュージアム協会は、チルドレンズミュージアムを代表する最も重要な専門組織であり、世界中のチルドレンズミュージアムを支援することを使命としている。米国チルドレンズミュージアム協会のビジョンは、すべての子どもたちを尊重し、彼らが学び、成長する多様な方法を尊重する世界である。

② 2019年版「チルドレンズミュージアムとは何か？」(Association of Children’s Museums, 2019)の一部抜粋(著者による邦訳)では、チルドレンズミュージアムの定義が記述され、続いて地域の観光地として、教育的なラボ、コミュニティの資源、子どものための代弁や擁護の4つの働きが示された。最後に、米国チルドレンズミュージアムのビジョンが示され、300館を超えるチルドレンズミュージアムを束ね、支援する組織であることが明示された。

## 5 考察

本研究の結果で示した2012年版と2019年版のチルドレンズミュージアムの定義を踏まえ、考察では(1)米国チルドレンズミュージアム協会による定義(Association of Children’s Museums, 2022; Association of Children’s Museums, 2019)が大きく変わった前後の2012年と2019年を比較する。次に、(2)モノをめぐる人と人とのコミュニケーションを大切にしようと考えたシフトの背景と理由を探る。

### (1) 2012年と2019年のチルドレンズミュージアムの定義の比較

まず、2012年版と2019年版の共通点は、チルドレンズミュージアムについての定義の文言が同じである点を挙げることができる。チルドレンズミュージアムが子どもたちとその家族のために、展示やプログラムを通して活動をする施設であることはいずれの文書においても共通している。

2012年版では、ミュージアムの役割を説明する文言において、作品や収蔵品といったモノの保管、管理や修繕が挙げられ、人よりもモノを中心に考えていた傾向が見られた。その一方で、2019年版では、ミュージアムは人のためにその役割を果たすと説明されている。具体的には、その地域を訪れる人々のための観光目的地として、また地域の学校や教育施設のための実験的な研究所としての役割が挙げられている。さらには、地域の資源として、また子どもたちの代弁や擁護の役割が示され、地域に根づき、地域の人々と連携をする役割を担うと示されている。更に、2012年版ではチルドレンズミュージアムは子どもを対象とした活動することが定義されていた一方で、2019年版では、子どもとその家族やコミュニティを対象とすることが明示され、チルドレンズミュージアムが対象とする人の年齢が子どもだけではなく大人にまで広がった。2012年版ではミュージアム内のオブジェクト・モノについて多く言及した定義文書であったが、2019年ではミュージアム外の地域の人々について多く言及した定義文書であり、その内容は相違している。

### (2) モノと人から、人と人のコミュニケーションを重視したシフトの背景と理由

ここでは、2012年から2019年のあいだのシフトの背景と理由について考察する。1990年代後半から2012年までに創立したチルドレンズミュージアムには、作品や収蔵品などがないような従来のミュージアムでは考えられないようなチルドレンズミュージアムも増えていった。その後2012年から2019年までの7年間の間に、変革期(過渡期)が生じていたと考えられる。この期間を変革期(過渡期)と位置付ける出来事が二つあった。

一つ目の出来事は、2015年から2019年まで米国チルドレンズミュージアム協会によって実践的研究が行われたことである。この研究では、4つの研究課題として、学びの枠組み、遊びの価値、子どもの家族によるチルドレンズミュージアムの認識、子どもの社会情緒的発達が検討された。これら4つの研究課題は、それまで実践に重きが置かれていたチルドレンズミュージアムにおいて、子どもたちとその家族はどのように遊び、何を学んでいるのかを明らかにしようとした初めての大規模な研究(ACM Research Network, 2022)だった。この研究では、チルドレンズミュージアムにおける学びと遊びの定義は、ミュージアムごとに異なり、一貫していないことが明らかになった(Luke et al, 2021)。一方、子どもの社会情緒的発達は、公園よりもチルドレンズミュージアムでの活動で多く促されることが明らかになった(Luke et al, 2019)。

二つ目の出来事は、Herz(2017)による「チルドレンズミュージアムはミュージアムなのか?ただの素敵な遊び場と何が違うのか?」のセンセーショナルな問いを投げかけた論文が発表されたことである。この



レビュー論文の発表は、チルドレンズミュージアムの収蔵品の有無について言及し、収蔵品のないミュージアムは、ミュージアムなのかという議論を展開した。収蔵品のあるチルドレンズミュージアムの伝統的な考えをもつ人と、収蔵品をもたないで新しい試みに開かれた考えをもつ人との議論は紛糾していることを示した。

米国で収蔵品をもつチルドレンズミュージアムは4館、収蔵品をもたないチルドレンズミュージアムはその他の約300館である(Schofield-Bodt,1987)。ミュージアムが収蔵品を収蔵し、保管、維持することは、費用がかかる。一方で、収蔵品をもっていないのは、保存保管の費用がかからず、その代わりに新しい企画や、プログラムの開発をすることができると考えられる。

この二つの出来事が生じたことは、2012年から2019年までの変革期（過渡期）のあいだ、米国チルドレンズミュージアム協会はその存在意義を確立しようとしていた。それまでは作品や収蔵品があることが前提としてあったミュージアムにおいて、作品や収蔵品がないミュージアムでは、人々は何をしているのか。作品や収蔵品がないミュージアムは、どのような役割を追求することができるのか、を議論して確かめようとしていた。その研究の結果、子どもたちはチルドレンズミュージアムの中で、ただただ遊んでいるだけではなく、モノを介して、他の子どもや家族とコミュニケーションをとって遊び、そのなかで社会的、認知的な発達が促されていることが明らかになった。加えて、チルドレンズミュージアムでは問題場面が自然生成され、子どもたちは自らその問題を解決していることが示された(Munley, 2012; Luke. et al, 2017; Herz, 2017)。

2019年に示されたチルドレンズミュージアムの定義を2012年の定義と比較すると、コレクションに関する文言が無くなった。更に、子どものためのチルドレンズミュージアムから、子どもとその家族、コミュニティのためのチルドレンズミュージアムと記述されている。この定義が定められた背景には、収蔵品の無いチルドレンズミュージアムが存在する現実を反映したことがあると考えられる。更に、実践研究結果から、子どもだけではなく、子どもと同伴する家族である大人のための場でもあることが示された。チルドレンズミュージアムには、16歳以下の子どもは大人の同伴がないと入館することができない。子どもと同館する大人は、チルドレンズミュージアムが、子どもの遊びや成長を観察することができる場であると認識している (Luke et al, 2019)。子どもの探究的な学びは、同伴する家族や大人とのコミュニケーションによって促進することも明らかになってきている(Callanan. et al, 2017; Willard. et al, 2019; Sobel, D.M., Letourneau, S. M., Legare, C. H.& Callanan, M. 2020) 。2012年から2019年の変革期(過渡期)を経て、モノをめぐる人と人とのコミュニケーションを大切にしようと考えたシフトの背景には、チルドレンズミュージアムの収蔵品の有無に関する議論と、子どもとその家族の学びの実践研究の蓄積が考えられる。

## 6 おわりに

本稿では、米国のチルドレンズミュージアムで起こったモノと人から、モノをめぐる人と人とのコミュニケーションを大切にすパラダイムシフトが、変革期（過渡期）を経て、チルドレンズミュージアムの存在意義や役割を確率しようとしたプロセスによって起こったことが示唆された。また、実践研究から子どもとその家族の社会的ニーズに沿った活動ができるように務めるミュージアムの態度は、日本におけるチルドレンズミュージアムや一般的なミュージアムの発展にも示唆を与えるものと考えられる。

### 引用文献

Association of Children’s Museums (2012). Standards for Professional Practice in Children’s Museums[PDF file]. Retrieved 3/20/22, from <https://childrensmuseums.org/wp-content/uploads/2022/01/StandardsforProfessionalPracticeinChildrensMuseums.pdf>

- Association of Children's Museums (2019). What is a Children's Museum? [PDF file], Retrieved 3/20/22, from <https://childrensmuseums.org/images/ACMFourDimensionsofChildrensMuseums.pdf>
- Association of Children's Museums (n.d.). About ACM[web site], Association of Children's Museums. Retrieved 3/20/22, from <https://childrensmuseums.org/about/about-acm>
- Association of Children's Museums (2022). Children's Museum Research Network[web site]. Retrieved 3/20/22, from <https://childrensmuseums.org/initiatives/childrens-museums-research-network/>
- Boston Children's Museum (2013). Boston Stories The Children's Museum as a Model for Nonprofit Leadership [PDF file]. Boston Children's Museum. Retrieved 3/20/22, from <https://www.bcmstories.com/thebook.php>.
- Callanan, M.A., Castañeda, C.L., Luce, M.R. and Martin, J.L. (2017), Family Science Talk in Museums: Predicting Children's Engagement From Variations in Talk and Activity. *Child Development*, 88: 1492-1504. <https://doi.org/10.1111/cdev.12886>
- Dewey, J., (1991). The school and society, and other essays., (デューイ, J. 上野正道ら (訳) (2019). 『学校と社会、ほか』 東京大学出版会)
- Herz, R.S. (2017). Where are the objects? Why is this a museum? What allows us to claim special educational status for these charming play spaces? Turning to Curator for answers. *Curator the Museum Journal*. Virtual Issues. Retrieved 3/20/22, <https://curatorjournal.org/category/virtual-issues/>
- Herz, R.S. (2017). Children's Museums: A Look Back at the Literature. *Curator the Museum Journal*. 60(2),pp.143-150
- Luke, J.J, Letourneau, S. M. , Rivera, N. R., Brahms, L.& May, S. (2017). Play and Children's Museums: A Path Forward or a Point of Tension? *Curator the Museum Journal*., 60(1),pp37-46.
- Luke, J. J., Tomczuk, E. D., Foutz, S., Rivera, N., Brahms, L., Nelson, K., Hahn, B., Swank, M.& McKenney, K. (2019). What Caregivers Observe about Their Children's Learning During a Visit to the Children's Museum, *Journal of Museum Education*, 44:4, 427-438, DOI: 10.1080/10598650.2019.1672136
- Luke, J.J. , Rivera, N. R. , Colbert, L. A. & Sharon, C. J. (2021). The problem of play in children's museums, *International Journal of Play*, 10:1, 63-74, DOI: 10.1080/21594937.2021.1878773
- Marsh, C. (1987). The Discovery Room: How It All Began. *The Journal of Museum Education*.12(2). pp.3-5.
- 小笠原喜康 (2015). 『ハンズオン考』. 東京堂出版.
- Munley, ME. (2012). Early Learning in Museums: A Review of Literature. Retrieved April 30, 2022. <https://www.si.edu/Content/SEEC/docs/mem%20literature%20review%20early%20learning%20in%20museums%20final%204%2012%202012.pdf>
- Simmons, J.E. (2010). History of Museums. *Encyclopedia of Library and Information Sciences*, (4th ed.). pp.1812-1823.
- Sobel, D.M., Letourneau, S. M., Legare, C. H., Callanan, M. (2020). Relations between parent-child interaction and children's engagement and learning at a museum exhibit about electric circuits. *Development Science*, 2021;24:e13057. <https://doi.org/10.1111/desc.13057>
- Willard, A.K., Busch, J. T.A., Cullum, K. A., Letourneau, S.M., Sobel, D. M., Callanan, M., Legare, C. H. (2019). Explain This, Explore That: A Study of Parent-Child Interaction in a Children's Museum, *Child Development*, 90 (5). pp.598-pp.617.